

令和3年度全国学力・学習状況調査の
結果をふまえた指導改善策

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 上記のような取組みを通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年・義務教育学校第6学年の児童

3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童に対する調査
 - ・学校に対する調査

4 調査日時

令和3年5月27日（木）

II 学力調査の結果【小学校・義務教育学校前期課程】

1 教科に関する調査結果（平均正答率※）

	国語	算数
全 国	64.7	70.2
広島県	66.0	70.0
府中市	70.0	74.0
（ 国府小 ）	73.0	73.0

※平均正答率とは、「児童の正答数の平均」÷「設問数」の値を、%で表わしたものです。

2 調査問題の趣旨・内容

区分	調査問題の趣旨・内容例
国語	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。 ・ 資料を用いた目的を理解する。 ・ 目的や意図に応じ、資料を使って話す。 ・ 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する。 ・ 思考にかかわる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う。 ・ 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。 ・ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。 ・ 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える。 ・ 目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。 ・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で使う。 ・ 文の中における主語と述語との関係を捉える。 ・ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。
算数	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる。 ・ 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる。 ・ 速さを求める除法の式と商の意味を理解している。 ・ 条件に合う時刻を求めることができる。 ・ 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる。 ・ 三角形の面積の求め方について理解している。 ・ 複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる。 ・ 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。 ・ 棒グラフから、数量を読み取ることができる。 ・ 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。 ・ データを二次元の表に分類整理することができる。 ・ 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。 ・ 集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる。 ・ 示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる。 ・ 商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる。 ・ 少数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、基準値を1としたときに比較量が示された少数に当たる理由を記述できる。

3 調査結果にみられる特徴と課題及び今後の改善策

【国語】特徴と課題	
◇	<p>② 一 …本校 94.0% 広島県 78.7% 全国 77.6%</p> <p>〔第5学年及び第6学年〕思考力、判断力、表現力等C 読むこと <u>文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握すること</u> →多くの児童は、【資料】の文章が「何について」「どのように」書かれているかを捉えることができている。</p>
◆	<p>② 四 …本校 34.0% 広島県 30.6% 全国 29.7%</p> <p>〔第5学年及び第6学年〕思考力、判断力、表現力等C 読むこと <u>目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること</u> →多くの児童が、要約する際に、2つの条件のうち一方の条件しか満たすことができていない。</p>

◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点

【国語】改善策	
<p>■条件を与えて要約指導を行う</p> <p>中学年以上の学年で要約をさせる際には、目的を意識した上で中心となる語や文を見付けるように指導する。また、条件を提示することで、それに合わせて書くことができているかどうかをふり返る（評価する）ことができるようにする。</p> <p>（条件の例）</p> <p>①字数を指定する……………（例）50文字以上 80文字以内にまとめて書きなさい。</p> <p>②使用する言葉や文を指定する……………（例）本文の中の言葉や文を取り上げて書きなさい。</p> <p>③書く内容を指定する……………（例）〇〇が分かるように書きなさい。</p>	

【算数】特徴と課題	
◇	<p>③ (3) …本校 44.0% 広島県 54.0% 全国 55.2%</p> <p>〔第4学年〕D データの活用 <u>データを二次元の表に分類整理すること</u> →多くの児童が、データを二次元の表に分類整理することができている。</p>
◆	<p>④ (2) …本校 44.0% 広島県 54.0% 全国 55.2%</p> <p>〔第4学年〕A 数と計算 <u>商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面</u>で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすること →多くの児童が、（整数）÷（整数）の除法では、被除数の方が除数より大きくなると考えて $8 \div 4$ という式に表し、計算をしていると考えられる。</p>

【算数】改善策	
<p>■イメージ力と立式力を育てる文章題指導を行う</p> <p>文章題を解く際には、すでにわかっている情報を図に整理させ、状況を具体的にイメージする力が身につくようにする。そのために、低学年の段階から「ドット図」や「テープ図」「線分図」など、文章題を解く際に手がかりとなる図の使い方を指導し、児童自身が活用できるようにする。</p> <p>また、自分が考えた式が一般化できるかどうかを確かめる力をつけるために、解決方法をことばの式（例：全体の量÷人数＝1人分の量）で表現する力を身に付けさせたい。そのために、低学年の段階から具体的な操作を取り入れ、「具体的な数量の変化」と「抽象的なことばや記号」とが結び付くように指導していく。</p>	

Ⅲ 学習状況調査の結果

1 学習状況調査（児童質問紙）の結果にみられる傾向

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも高かった項目	
(31) 5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか	本校 96.0% 広島県 82.2% 全国 82.0%
(34) 5年生までに受けた授業では、各教科等で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか	本校 84.4% 広島県 67.1% 全国 67.2%
肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目	
(32) 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	本校 56.9% 広島県 61.3% 全国 63.5%
(18) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	・・・1時間以上と回答した児童 本校 60.7% 広島県 65.3% 全国 62.5%
(21) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	・・・10分より少ないと回答した児童 本校 43.2% 広島県 37.1% 全国 38.5%

2 生活習慣・学習環境などに関する改善のポイント

<p>① 1より、児童の多くが「自分の考えを伝えること」や「自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりすること」ができていると考えられる。一方で、半数近くの児童が「資料や文章、話の組み立てなどを工夫する」という点において、不十分であると感じている。したがって、「話し合い活動」だけでなく「スピーチ（発表）」の指導にも力を入れていく必要がある。そのために、「一部の児童だけがスピーチ（発表）をして終わる」「スピーチを学習する単元でしかスピーチを経験しない」のではなく、“全員が”“日常的に”スピーチ（発表）を経験できるような授業づくり・場づくりを工夫していく必要がある。</p> <p>② 1より、児童の約65%が1日あたり（月～金曜）2時間以上（「1時間以上」になると90%超）テレビゲームをしていることがわかる。最近では、オンラインゲームに関する児童間トラブルや保護者からの相談も増えており、学校での指導の必要性を感じる。また、家庭での過ごし方については、1日あたり（月～金曜）1時間以上勉強していると回答した児童が全国平均値を下回り、1日あたり（月～金曜）の読書時間が10分より少ないと回答した児童が全国平均値を上回っていることから、家庭での学習習慣や読書習慣の定着に改善の余地がうかがえる。家庭と連携を図ることで、児童一人一人が、学校だけでなく家庭においても主体的に学習できるような取組を行う必要がある。</p>
